巻頭言

経営学部20年の総括 ― 外部機関の認証評価

経営学部長　照屋行雄

神奈川大学は、2000年度に「自己点検・評価報告書」を作成し、(財)大学基準協会による相互評価および改善勧告を自主的に受けて、全学規模並びに各部局単位で教育改革に取り組んできた。その後、本学は自己点検・評価体制を強化し、６年に１度の外部機関による認証評価を受審すること、および３年ごとの全学的な自己点検・評価を実施することを決定した。この方針に基づき、2008年度に全学並びに各部局での自己点検・評価を行い、2009年度に再び大学基準協会による認証評価を受審した。

経営学部は、2009年度に学部創設20周年を迎えて各種の記念事業を実施してきたが、2008年度の自己点検・評価並びに2009年度の外部認証評価を通じて、学部20年の教育・研究活動とその成果を総括する機会となった。外部認証評価の結果は、神奈川大学全体に対する大学基準協会の判断として認定「可」とする総合評価が示されたが、その判断形成の基礎として提出された専門評価分科会報告書において、経営学部に係る総合評価も「可」と認定された。経営学部のこの20年の取組みに対する社会の評価と受けとめたい。

個別項目の評価では概して「B」評価となっているが、「長所として特記すべき事項」や優れた教育成果として高い評価を受けた項目も幾つかある。しかしながら、教育内容・方法、学生の受入れなど６項目にわたる個別評価において「改善を勧告すべき事項」はなかったものの、「問題点として指摘すべき事項」として４項目が提示されている。これらの指摘事項については速やかに改善に努めるとともに、各項目の評価概評に示された意見内容についても、今後の学部教育の中で十分に活用したいと考えている。

自己点検報告書に記載された各点検項目の [改善方策] と、外部評価報告書に提示された各評価項目の [指摘事項] は、学部運営に当たっての優先的な改善課題となるとともに、今後の経営学部の教育改革の方向性にも大きな影響を与えるものとなる。経営学部教授会の構成メンバーをはじめ本学部関係者においては、本ERシリーズNo. 3によって改めて経営学部の現状と課題を確認されるとともに、改善方策の実現や指摘事項の解決のために、それぞれの立場で期待される役割を果たされることを願っている。